

## 一般橋上駅化は拙策、財政の悪化を招く

一 織部 光男（無所属）



◎ 令和2年以前3年間の菊川駅利用者数は。

Ⓐ 平成30年度が151万6925人、令和元年度が149万4551人、令和2年度が123万2294人となっている。また、JRからの報告によると、平成30年度は乗客だけで4155人。降客もほぼ同じと考えれば倍の8310人が1日の利用者となる。令和2年度の利用者減はコロナ禍の影響等の要因もある。

◎ 乗降数を1日に換算し、私のほうで申し上げますと、平成30年が4155人、令和元年が4094人、令和2年が3376人です。確実に減っている。私は自分で令和4年1月17日に菊川駅の利用者を調べましたが、始発から2時2分までに1630名が乗車し、降りた方は、同じ時間で1233名です。トータル2863名が菊川駅を利用している結果となった。菊川駅の利用者数は、駅を造ることによって大幅に増えると考えるか。



Ⓐ 南北一体化したまちづくりのために自由通路を造っている。最終的には人口が増え、駅利用者も増加するという考えでまちづくりを進めていきたい。

◎ このような理由で、市民の血税43億強を使う費用対効果の科学的必然性はあるか。また、橋上駅が完成すればそれだけで賑わいが生まれると考えているか。

Ⓐ 南北自由通路の整備に併せ、にぎわいの研究や駅北新市街地整備を進めることにより、にぎわいの創出と地域の活性化が図られ、さらに市全体の魅力向上、人口減少の抑制につながると考えている。

## 一般 子宮頸がん（HPV）ワクチン

一 渥美 嘉樹（みどり21）



改めてHPVワクチンの安全性について特段の懸念が認められないことが確認されたため、厚生労働省より、「令和4年4月から接種の個別勧奨をすべき」との助言が発せられた。

4月以降HPVワクチンの接種をどのように実施していくかは、菊川市にとっても命や健康が密接に関わる最も重要な課題の一つである。事実に基づいた理解を広め、勧奨の停止以降急減してしまった接種率を向上させるような取り組みを実行するべきという観点で質問をする。

◎ 定期接種の希望者全員が接種できるように、柔軟で十分な予算の確保が必要だと考えるがその方針を伺う。

Ⓐ 延べ711人分を予算計上した。希望する方が漏れなく接種できるように適切に対応していく。

◎ 予算以上の希望者がいた場合は予算を追加し確保するというか。

Ⓐ 必要があれば議会に諮り、予算を確保していく。

◎ キャッチアップ接種について確実に漏れのない情報提供を実施して欲しい。どのような計画で進めていくか伺う。

Ⓐ 令和4年度は、対象者全員に案内を送付する予定。令和5年度以降は未接種の方に改めてはがき等で案内通知を送付し、希望する人がキャッチアップ接種期間内に漏れなく接種できるように周知に努めていく。

### 令和4年度の子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）接種について

	対象(女性のみ)	菊川の対応
定期接種	小6～高1相当	中1～高1相当に個別通知
キャッチアップ接種	H9～H17年度生まれ(約1,550人)	全員に個別通知(3年間のみ)

※HPVワクチンは子宮頸がん予防に非常に高い効果があります。また、安全性はあらゆる研究で確認されており、国からも接種勧奨の方針が示されています。菊川市のホームページに分かりやすいパンフレットや説明などがありますので、まずはそれを読んでいただき、ぜひ接種することをお勧めします。  
(渥美)